

## 令和6年度外部評価会 集計表(農業者用)

所属名: 曾於畑地かんがい農業推進センター 農業普及課

課題名③ 複合品目トルコギキョウの導入による新たな花き経営モデルの確立						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①農業者や地域が必要とする課題であるか	2	1		・現在導入する農家としては適当であるが、地域全体としては判断できない。	・地域として生産者の維持・確保は最重要課題であり、トルコギキョウは経営の複合化等による経営の多様化に柔軟に対応できる有用な品目と考える。 ・花き産地の維持・拡大を念頭に、課題整理を繰り返しながら、普及活動を展開する。
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	3			・トルコギキョウの導入時期であり、選定は適切である。	・生産者がスムーズに課題解決に取り組めるよう、今後も伴走支援を続ける。
活動体制・活動 方法	③関係機関とうまく連携して活動しているか	3			・普及員や生産者等が一体となり新しい品目に取り組み、同じ目標に向かって活動していた。 ・JAや経済連、試験研究機関など関係機関の連携がとれていた。 ・専門的な技術や情報が適切に収集されていた。	・今後も、関係機関と目標や課題を共有し、支援チームの連携を維持・強化できるよう、コーディネートに努める。
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	3				
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	3				
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	1	2		・事例集等のとりまとめなどはよい提案であった。 ・トルコギキョウの導入は大きなメリットがあるので、更に推進して欲しい。 ・スピード感が必要で成長に効果があった。	・事例集は、次年度以降も継続して作成・更新し、関係者で情報の共有と蓄積を進める。 ・導入のメリットや導入例について情報の整理と発信に努める。
活動の 波及性 と改善	⑦他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	2	1		・他農業者や地域への一定の波及効果があった。 ・トルコギキョウを冬のブランド産地とするには、まだ時間が必要。関係機関の支援体制の充実が重要であり、支援体制の強化を望む。	・産地化に向けて、特性把握や適性評価が概ね達成されたと考えている。今後は、地域への波及に向けて、推進対象の明確化や情報の整理・発信に努める。
	⑧結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	3				

## 令和6年度外部評価会 集計表(関係者用)

所属名: 曾於畑地かんがい農業推進センター 農業普及課

課題名③ 複合品目トルコギキョウの導入による新たな花き経営モデルの確立						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか	4	1			
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	5				
活動体制・活動 方法	③関係機関と連携して活動しているか	5				
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	5				
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	5				
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	5				
	⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか	5				
活動の 波及性 と改善	⑧他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	4	1		・花きのみでなく他作物との複合を検討しており期待できる。 ・高い収益性と経費削減効果をPRし、成果を拡大して欲しい。	・今後、推進対象の明確化や情報の整理・発信に取り組む。
	⑨結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	4	1			

## 複合品目 トルコギキョウの導入による 新たな花き経営モデルの確立



キーワード：  
経営の複合化、トルコギキョウ、地域特性、多様な担い手、地域のモデル、データ活用

曾於畑地かんがい農業推進センター  
農業普及課 果樹花き普及係

## 国内の切り花生産の状況

Introduction

- ✓ 切り花生産額1位の品目は**キク類**（花き生産統計より）
- ✓ キク類の**需要が低迷**
- ✓ 近年の需要は **洋花** > **和花**



表 令和5年度切り花生産額

順位	品目	生産額
1	キク類	585億円
2	ユリ類	191億円
3	バラ	170億円
4	トルコギキョウ	133億円
5	カーネーション	105億円

### キク類需要低迷の要因

1. 葬儀・墓参り需要の縮小
2. キクにこだわらない祭壇



輪ギク主体の大きな祭壇



近年のカラフル祭壇(左:ヒマワリ、右:カーネーション)

3. 「仏花」以外での、汎用性が低い

## 成果の要約

Abstract

### ＜地域の現状＞

- キク類は、**需要が低迷**する一方で、**冬場の生産コストが増加**
- 曾於地域の**花き生産者は減少**しており、経営安定・新たな担い手の確保が必要

### 冬春期の複合品目(トルコギキョウ)を導入し、 経営の安定化と多様な担い手の確保を目指す

#### ＜取組内容＞

1. **支援チーム**を編成
2. 検討会や研修をととして、**技術習得を支援**
3. 実証ほでの**栽培データ収集・調査**
4. 関係機関の**連携強化**



#### ＜成果＞

1. 高いレベルで技術の習得が進む
2. データ蓄積・活用する基盤を整備
3. 新しい経営モデルのイメージを確立

#### ＜今後の展開＞

1. 生産者の技術向上を支援
2. 新たな経営モデルとして地域への波及を検討する

## 国内の切り花生産の状況

Introduction

- ✓ 切り花消費は、H14年比で **25%減少**（農林水産物の中でも消費減退が著しい）
- ✓ 全国的に切り花の**生産額が縮小傾向**（H20年比42%減）

### 1 家計消費の動向

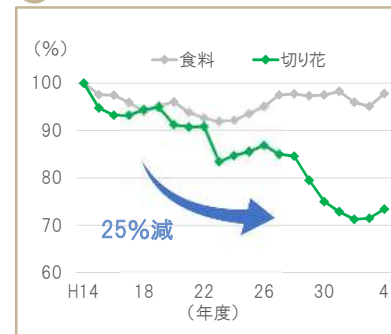


図 切り花の家計消費の推移(H14～R4)  
総務省家計調査結果より切り花を抜粋して作成

### 2 切り花生産額の推移

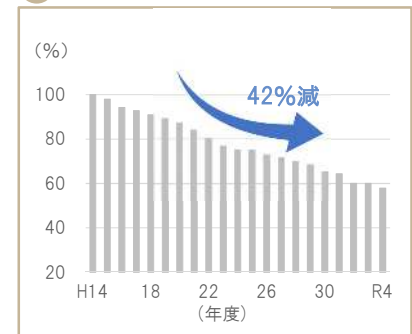


図 切り花生産額の推移(H14～R4)  
農林水産省作況調査(花き)より切り花を抜粋して作成

## 曾於地域の花き生産状況

Introduction

- ✓ 曾於地域はスプレーギクの生産が盛ん(県経済連共販実績の2割を占める)
- ✓ かごしまブランド産地であるが、部会員数はピーク時から**63%減少**

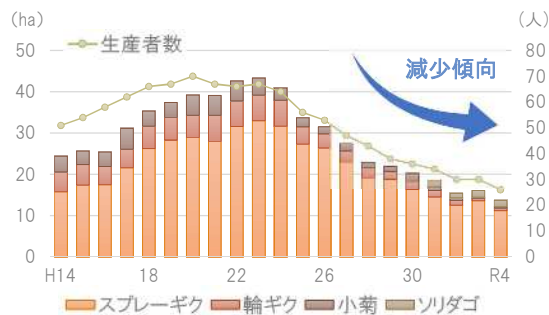
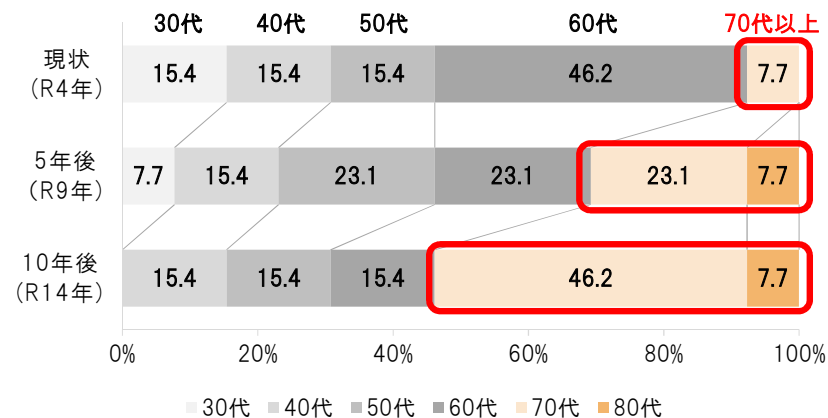


図 JAそお鹿児島花き部会員数と栽培面積の推移(H16～R4)

## 現状分析と将来予想(課題整理)

Plan

- ✓ 現状(令和4年)から、5・10年後の産地の姿を予測  
⇒過半数が70代以上に

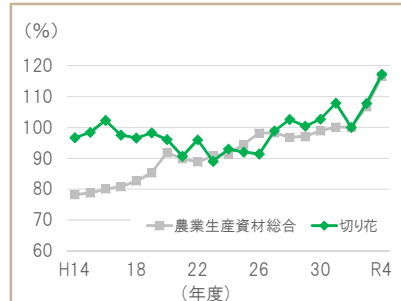


## 花き生産者が減少した背景(課題整理)

Plan

- ✓ 主な要因は「**所得率の低下**」と「**高齢化**」

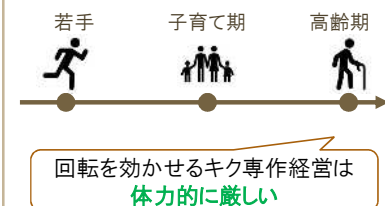
### 1 単価伸び悩み、資材価格が高騰



品目転換(果樹や野菜等)

### 2 高齢化、施設老朽化

<生産者のライフステージ>



離農

## 生産者は現状どう捉えている？(課題整理)

Plan

巡回時に営農意向を聞き取り(～R4)

後継者

継承の見込み  
**0%** ※1

※1:経営主が60代以上の経営体を対象に聞き取り  
※2:JAそお花き部会員に聞き取り

生産規模

過半数が  
**縮小の意向** ※2

このままでは産地がなくなる恐れ！

キク専作は厳しいが、切り花は作りたい！  
キク類専作以外の体系を求める声も

## 現状を打破する地域の取り組み

Plan

### 担い手の多様な生活様式にあった栽培体系を探索

H30年～R3年

「ソリダゴ」の生産拡大

クルクマの導入例も

- ✓ 省力低コスト品目として、「ソリダゴ」の生産拡大に取り組む



花き経営の複合化率 **58%** (令和4年度時点)



### <新たな課題>

- ✓ 冬春季の**コスト上昇**
- ✓ **小面積**で、収益が見込まれる品目



9

## トルコギキョウ栽培は地域特性を活かせる

Plan

- ◆ 生育には**多量の水**が必要  
⇒ 曾於地域では、豊富な水利用が可能！
- ◆ 生育には**日照**を要求する  
⇒ 曾於地域は年間を通して日照量が多い
- ◆ 小面積で栽培でき、高い収益と経費削減が見込まれる



地域特性を生かして**新しい花き経営体系**を追加できないか？



## トルコギキョウの特徴

Plan

- ✓ 北アメリカ原産の**湿地性**の夏の花
- ✓ 花色や花形の種類が豊富で**幅広い用途**に対応
- ✓ 近年生産額が伸びている品目



地域のニーズ①

**冬春季の経費削減を期待！**

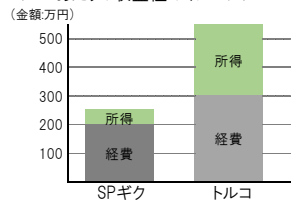
地域のニーズ②

**小面積で収益が見込まれる！**

<主要な生産資材の比較>

	トルコギキョウ	SPギク
暖房温度	8～12℃	～18℃
施肥量	5～10kg/10a	15kg/10a
薬散頻度	2週に1回程	毎週必ず

<10aあたりの収益性のイメージ>



※令和3年度版 鹿児島県農業経営管理指導指標より

SPギクと比べて経費かからず、高い収益が見込まれる

## 産地の課題と普及活動の目標

Plan

普及指導計画での位置付け

区分	主な活動事項	指導対象
重点	持続的な花き生産に向けた取組支援	JAそお花き部会生産者14戸
重点	スプレーギクの高品質安定生産支援	7戸
重点	トルコギキョウの複合経営モデルの確立	2戸
一般	花き経営体の育成・支援	14戸
一般	その他花き類の生産支援	9戸

<目標>

- 技術習得を支援し、**地域のモデルとなる生産者を育成**する
- 新たな花き経営モデルとして「**キク類+トルコギキョウ**」の体系を確立



## 1 支援チームの編成と対象の選定

○指導対象:トルコギキョウ導入農家2戸

○支援チームの編成



地域のモデルとなる農業者の育成を目指した

## 2 栽培技術習得を支援 ～現地検討会～



### ポイント

✓ 生育に合わせて検討会を実施!

主な検討会の時期と内容(R4～R6年は毎年実施)

### 内容

8月	ほ場準備と栽培計画の確認
9月	定植直後の管理
10月	生育初期の管理
11月	整枝・仕立て
2月	2度切り栽培の管理

【実施数】15回／3カ年

【参加者】延べ22名(生産者)

延べ87名(関係機関)



## 2 栽培技術習得を支援 ～先進地等研修～

Do



### 研修をとおして



生産者  
先進地の技術や考え方が勉強になった。さらにレベルアップしたい！  
県内に同じ品目を作る仲間がで、有意義な情報交換ができた



関係機関  
他産地の取組を知り、地域の課題や目標が明確となった

⇒地域全体で生産意欲が高まっている!!

【実施数】6回／3カ年(内1回は受入れ)  
【訪問先】福岡県、熊本県、県内  
(南さつま市、指宿市、花き研)

17

## 活動の展開

Do

### 1 支援体制づくり

### 2 生産者の育成支援

### 3 栽培技術の蓄積

### 4 支援チームの連携強化

複合品目  
トルコギキョウの  
導入による  
新たな花き経営  
モデルの確立

## 2 経営管理能力の向上支援 ～出荷反省会～

Do

普及員：出荷実績を個別に整理

出荷反省会(例年7月に実施)

＜検討事項＞

- ①今作の反省・課題整理
- ②次作の目標と改善策



### ポイント

- ✓ 生産者の**主体性を尊重**  
⇒普及員がすぐ答えを出さないよう  
カウンセリング
- ✓ **個別カウンセリングにしない**  
⇒他の生産者の考え方や取組を  
知る機会
- ✓ 経営を意識して、技術課題を  
設定する**PDCAを体験**する

【実施数】2回／3カ年  
【参加者】延べ 4名(生産者)  
延べ 14名(関係機関)

生産者の考えを引き出し、次年度に向けて**課題と対策を明確化**

18

## 3 技術向上や生産安定を図るための活動 ～品種～

Do

＜トルコギキョウの品目特性＞

- 400以上の品種が登録され、**品種特性が品質に影響**する  
⇒**地域に適した品種を選定**する必要がある



【アンケート調査】  
生理障害の有無、  
生育特性、品質など  
を把握・整理



【支援チームで共有】



✓ アンケート内容(選択式13項目)

品種名	栽培地	収穫期	...
1. 品種名	1. 栽培地	1. 収穫期	...
2. 生理障害の有無	2. 生理障害の有無	2. 生育特性	2. 品質など
3. 生育特性	3. 生育特性	3. 生理障害の有無	3. 生育特性
4. 品質など	4. 品質など	4. 生理障害の有無	4. 生育特性

【実施数】11回／2カ年  
【調査数】延べ91品種(2度切り含む)

地域での品種特性や栽培のポイントが  
徐々に明らかに！

20

### 3 技術向上や生産安定を図るための活動 ～病害虫～ Do

<トルコギキョウの品目特性>

- 病害の発生が品質や切り花生産に影響を与えるとされる  
⇒**病害虫を調査**する必要がある



✓ 被害の例



【診断数】9回以上／3カ年  
【症例数】10種類(病害虫)

病害虫の発生消長や管理のポイントが  
徐々に明らかに！

21

### 3 技術向上や生産安定を図るための活動

Action

【収集データ(R4～6)】

調査・収集項目	件数
品種調査	91
病害虫	10
生理障害	9
栽培・その他	7
計	117+α

【もう一歩進んだ普及活動へ】

これまで

- ✓ 栽培データの収集、蓄積

これからは

- ✓ **データを活用する!!**

【具体的To do】

- ✓ **データ蓄積・活用の仕組みづくり**が必要

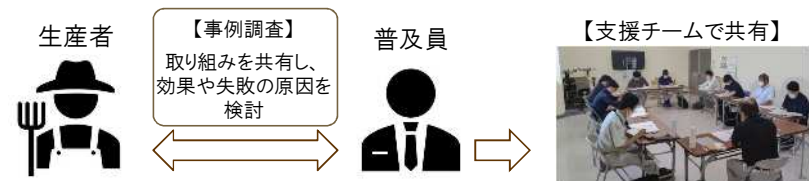


23

### 3 技術向上や生産安定を図るための活動 ～その他～ Do

<トルコギキョウの品目特性>

- キク栽培の技術が生かせる場面、キク栽培と全く異なる場面がある  
⇒**栽培事例を調査・収集**する必要がある

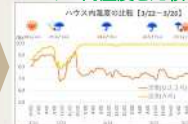


ア ヒートポンプを活用した湿度管理

着荷時の花シミ  
(@福岡花市場)



生産者の  
ハウス内温度を比較

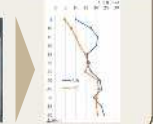


イ 根張りりと土壌病害の発生状況の把握

畝内の根量を調査  
最大40cmまで伸長



土壌硬度を調査し  
生産者と共有



### 3 技術向上や生産安定を図るための活動

Action

#### 1 病害虫事例集

トルコギキョウ  
病害虫・生理障害  
事例集

【掲載内容】

- ◆ 症例
- ◆ 被害の様子
  - ・被害の全景
  - ・被害部の拡大
  - ・診断のポイント
- ◆ 解説
  - ・症状について
  - ・要因と対策など
- ◆ 発生消長
- ◆ 診断のポイント

病害4例、虫害5例、生理障害等9例(全18症例)を掲載！

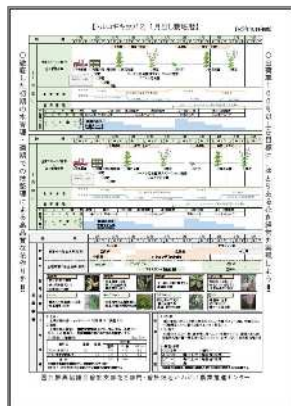
24



### 3 技術向上や生産安定を図るための活動

Action

#### 2 栽培暦(R6年度完成予定)



#### 3 品種カタログ(R7年度完成予定)



#### 4 栽培事例集(R7年度完成予定)



生産者の技術向上に加えて、  
将来の新規栽培者向けの指導書としても活用が期待される

25

### 活動の展開

Do

#### 1 支援体制づくり

#### 2 生産者の育成支援

#### 3 栽培技術の蓄積

#### 4 支援チームの連携強化

複合品目  
トルコギキョウの  
導入による  
新たな花き経営  
モデルの確立

26

### 4 支援チームの連携強化

Do

#### ◆ 会議室での検討に加え、生産者ほ場での検討会を通して地域内での連携を強化

- ・園振協花き技術部会
- ・現地検討会

#### ◆ 技術部会の活動は、花き全品目へと拡大

- ・キク類、ソリダゴ、テッポウユリの活動に波及



トルコ生産者と意見交換



地域の花き振興を協議



テッポウユリの検討会



スプレーグクの検討会



ソリダゴの検討会

27

### 1 活動の成果 ～スムーズな技術習得を達成～

Check

- ✓ スムーズな技術習得が図られ、面積が増加し、単価が向上！
- ✓ 出荷率は植え傷みや生理障害の影響で目標未達

#### 【3年間の取組成果】

年度	R4	R5	R6		振り返り
栽培面積	30a	36a	39a	>	栽培面積が30%増加
出荷率	115%	91%	-	>	目標(120%)に届かず
平均単価	196円	233円	-	>	市場評価が年々向上

#### トルコギキョウを導入した感想



栽培は難しいが、市場評価が単価に反映され楽しい。

キク類に比べて病害虫の心配が少なく、扱いやすい。

- ✓ 技術習得が進み、面積の増加や単価の向上が達成された

- ✓ 出荷率は、植え傷みや生理障害により目標未達  
⇒次年度以降の最重要課題

28

## 2 活動の成果 ～スムーズな技術習得を達成～

Check

✓ 令和5年度 県フラワーコンテストで**農林水産大臣賞**を受賞！



201点の出品から  
最高賞を受賞!!

評価のポイント

- ✓ 葉の照りやボリューム感
- ✓ 技術力の高さに、**市場関係者**からも高い評価

受賞を受けて



生産者  
さらに品質の良いものを届けられるよう努力したい。

⇒さらなる**技術向上に意欲的!!**

フラワーフェスタでの展示



消費者  
知っているトルコギキョウとは色や形が違って驚いた

トルコギキョウの花を初めて見た。他の色も見てみたい!!

⇒**消費者へのPRの機会に!!**

29

## 3 活動の成果 ～新しい花き複合経営の体系を確立～

Check

✓ 新しい経営体系のイメージ

月	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
キク類	挿し穂・管理			収穫・出荷			挿し穂・管理					
トルコギキョウ	定植			管理			収穫・出荷					

経営を複合化してみて



生産者  
キクに比べて経費がかかっておらず、経営的にも助かっている

時間に余裕ができた

病害虫への心配が少なく、精神的にも無理なく栽培ができる

キク類との組合せだけでなく、他品目(野菜や果樹等)との組合せも可能!



支援チーム

30

## 今後の展開

Plan

### 1 生産者支援

- ◆ **出荷率の改善**
- ◆ **データを活用した栽培の実現**

- ①「地域版栽培技術」の確立
- ②土壌水分やハウス内環境の見える化
- ③生育データを活用した計画出荷の実現



ラジオ出演で魅力発信も!

### 2 地域への波及

園芸振興協議会 曾於支部花き部門

曾於畑かん JAお農兄弟 市町

推進対象の選定

花き経営の安定化

情報発信

新規栽培者の確保



モデルとなる生産者

生産者も含めた支援チームで栽培を支援



花き生産者の経営安定と産地発展のために、曾於畑かんセンターでは、**関係機関と連携して、生産者とコミュニケーションをとりながら、生産者への伴走支援を続けます。**

ご清聴ありがとうございました